

タイトル	送る言葉(退職記念)
著者	濱, 忠雄
引用	北海学園大学人文論集, 45: 11-12
発行日	2010-03-31

送る言葉

濱 忠 雄

英米文化学科大塚秀之教授が2010年3月31日をもってご退職されるにあたり、送る言葉を述べさせていただきます。

大塚教授は、2005年3月に神戸市外国語大学を定年でご退職後、ただちに本学人文学部教授として着任されました。大塚教授は、また、同年4月に設置された大学院文学研究科英米文化専攻博士（後期）課程の要となるスタッフとして予定されておりましたから、修士と博士の両課程の研究指導教授を併任されました。そして、学部では「北米史Ⅰ」、「現代経済論」などの講義と演習を、大学院では「英米歴史文化」の特殊講義と演習、特殊研究を担当して、多くの学生・院生を育てられました。

大塚教授は、ご専門である「アメリカ経済史・現代アメリカ史」を「階級関係と人種関係という二つの社会関係、および、両者のあいだの相互関係に焦点をあてたアメリカ現代史研究」と表記しておられました。そのことは、これまでに上梓された以下の単著の表題からもうかがわれます。『アメリカ合衆国史と人種差別』（1982年、大月書店）、『現代アメリカ合衆国論』（1992年、兵庫部落問題研究所）、『現代アメリカ社会論——階級・人種・エスニシティからの分析』（2001年、大月書店）、『格差国家アメリカ——広がる貧困、つのる不平等』（2007年、大月書店）。

とくに本学着任後に出版された『格差国家アメリカ』は、「アメリカ合衆国は、資本主義の栄光と悲惨を映し出す格好の鏡である」との一文で始まり、「これまで、アメリカにおける格差と貧困、不平等とその由来を、もっぱら資本主義の原理的側面から論じてきたが、現代アメリカにおけるその現れを正確に理解するためには、アメリカ資本主義の現段階についての認識、および、そもそものはじまりからアメリカにつきまとうてきた、非ヨー

ロッパ系出身者にたいする人種差別の二点の考察が不可欠である」との視座から、経済格差や貧困、人種差別などの実相に照明を当てながら、これらの「アメリカ社会の断層」をアメリカ資本主義史や自由と平等の歴史という長期的なパースペクティブのなかで解明したもので、現代アメリカを知るための必読書となりました。また、2005年9月にニューオーリンズを襲ったハリケーン「カトリナ」、サブプライムローン問題やリーマン・ブラザーズ社の経営破綻、大統領選挙でのオバマ勝利など相次いで起こった重要な出来事にもいち早く反応されて、「貧しいアメリカ——『カトリナ』が明らかにしたもの」、「ワーキングプアのアメリカ——生活と闘い」、「オバマ勝利の画期的意義——危機打開へ人種の壁こえ」をはじめ数多くの論文、時評を『経済』（新日本出版社）などの月刊誌や新聞に発表されました。

それらの著書や論考に通底するのは、差別と貧困にあえぐ弱者やマイノリティーへの優しい眼差しであり、政治の民主的革新を希求する熱い思いでありましょう。

出前講義にも熱心に取り組まれました。用意された「アメリカ史における『人種』」、「緑豊かな郊外と『都市の荒廃』」、「もう一つのアメリカ」、「超不平等社会アメリカ」、「アメリカはどこへ向かうのか？」の5つのテーマの講義をとおして、道内外各地の高校生に現代アメリカとその歴史への関心を喚起されました。

5年間という短い期間でしたが、大塚教授は高度の専門的研究に裏打ちされた高い識見と豊富な経験をもって、学部・大学院の教育と研究、運営に尽力されました。その大きなご功績に対し心からの敬意と感謝を捧げるとともに、教育と研究に対する真摯で情熱的な姿勢に学ぶことで、学部・大学院の一層の充実と発展を期したいものと念じております。

大塚教授におかれては、ご退職後もお元気で、ますますご健筆を振るわれんことを祈念申し上げますとともに、今後とも折に触れてご助言、ご指導くださるよう、お願いいたします。

はなはだ拙辞ではありますが、送る言葉とさせていただきます。